

進捗状況報告シート

(2010年度・大学)

担当部局は☆印の箇所を記入のこと。

I. 評価項目・要素と担当部局

対象部局	神学部
大項目	7 国際交流
中項目	
小項目	7.0.1 国際交流（国内外における教育研究交流）についての方針を明示しているか。
要素	(KG1) 国際化への対応と国際交流の推進に関する基本方針の適切性
小項目	7.0.2 国際交流（国内外における教育研究交流）を適切に行っているか。
要素	(KG1) 国際レベルでの教育研究交流を緊密化させるための措置の適切性 (KG2) 国内外の大学院間の組織的な教育研究交流の状況（院）

II. 自己点検・評価《進捗状況報告》

【現状の説明】

《目標・指標》

本項目において、2009年度～2013年度の中期的な「目標」と「指標」を次のとおり設定した。

目標の進捗状況は「A:適切に実行している」「B:概ね実行している」「C:必ずしも実行していない」「D:実行していない」とし、自ら評価した。

2009年度に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗評価
1. 学部・研究科における国際交流方針を策定（設定）する。	→国際交流方針の明示（2013年度までに）。	C
2. 策定（設定）した国際交流方針に基づいて、新たな国外協定大学を開拓し、既存の協定大学との新たな展開を図る。	→新規および新たな展開を図った協定大学数（2013年度までに2大学を目指す）。	C
3. 全学的な学生交換制度や外国大学プログラムの利用促進を図る。	→留学生派遣および受け入れ人数。外国大学プログラムへの参加学生数。	B

2010年度以降に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗評価
	→	☆
	→	☆

《小項目ごとの現状説明》 ※ 全小項目について記述が必要

☆ 小項目7.0.1	(方針) [明文化に至っていない] (現状説明) 現段階において方針は明文化されていない。2013年度までに整備・明示の予定である。
☆ 小項目7.0.2	(現状説明) 現行、学術文化交流（学部および教員レベル）を意図して、ベルン大学神学部（スイス）および監理教神学大学校（韓国）と学部間（あるいは学部－大学間）協定を締結している。今後、その内容を充実するとともに、学部学生レベルの交流に展開を図ることが目下の課題となっている。 また、交換留学に近年実績がないものの、海外研修への派遣については実績をあげつつある。また言語教育におけるインテンシブプログラム受講者が海外研修への参加につながっている点も注目すべき点である。 ■ 英語インテンシブ・プログラム受講者数：2007年度・1名、2008年度・2名（うち、海外英語研修参加者・1名）、2009年度・1名、2010年度・1名 ■ ドイツ語インテンシブ・プログラム受講者数：2007年度・1名、2008年度・7名、2009年度・5名（うち、海外ドイツ語研修参加者・2名）、2010年度・10名
☆ その他	

《特定6項目データ》

本項目は数量的なデータによる評価(現状分析)が可能のため、次のとおり指標を定め経年比較している。

【神学部】			単位	2005	2006	2007	2008	2009	備考	
指標1	国際交流協定締結機関数		機関	—	—	—	—	—		
指標2	国際交流協定締結国数		国	—	—	—	—	—		
指標3	海外からの学生の受け入れ	国 数	国	—	—	—	—	—		
		外国人留学生	正規	人	1	0	1	1	1	
			交換	人	0	0	0	0	0	
		外国人留学生在籍学生比率	正規	%	0.9	0.0	0.7	0.8	0.7	外国人留学生÷在籍学生数
			交換	%	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
その他 (セミナー等による受け入れ)	人	—	—	—	—	—	—			
指標4	海外への学生の派遣	国 数	国	—	—	—	—	—		
		人 数	長期	人	0	0	0	0	0	
			短期	人	0	0	0	1	1	
		在籍学生比率	長期	%	0	0	0.0	0.0	0.0	海外へ派遣した学生数÷在籍学生数
			短期	%	0.0	0.0	0.0	0.8	0.7	
指標5	人的国際学術研究交流 (受け入れ教員数)	長期	人	0	0	0	0	0		
		短期	人	0	1	0	0	0		
指標6	人的国際学術研究交流 (派遣教員数)	長期	人	1	0	1	0	0		
		短期	人	10	6	7	6	3		
指標7	国連ボランティア(UNV)の参加者数		人	—	—	—	—	0		

注) 正規、交換について

正規とは学位取得目的、交換は正規以外とする。

注) 長期、短期について

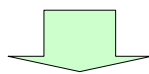
指標4: 1学期以上を「長期」とし、1学期未満を「短期」とする。

指標5・6: 1年間以上を「長期」とし、1年間未満を「短期」とする。

◎効果が上がっている事項

【点検・評価 (1)】効果が上がっている事項

小項目 7.0.1	
☆ 小項目 7.0.2	
その他	



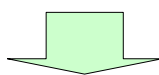
【次年度に向けた方策(1)】伸長させるための方策

小項目 7.0.1	
☆ 小項目 7.0.2	
その他	

◎改善すべき事項

【点検・評価 (2)】改善すべき事項

小項目 7.0.1	
☆ 小項目 7.0.2	
その他	



【次年度に向けた方策(2)】改善方策

小項目 7.0.1	
☆ 小項目 7.0.2	
その他	

◎自由記述

【点検・評価】&【次年度に向けた方策】

★ その他
(自由記述)

Ⅲ. 学内第三者評価

<評価推進委員会からの評価> (実務作業は評価専門委員会、評価情報分析室、企画室)

【学外委員】

○学問分野の特性から国際交流は実施しやすいと思われるが、あまり進展しているようには見えない。どこに問題があるのかを含め、検討されることが望まれます。

【学内委員】

○海外への派遣学生はあまりにも少ない。方針を策定し明示されることにより国際交流が促進されることを期待します。
○小項目7.0.1について、「改善すべき事項」とまでは言えないものの、「明文化」までのステップ（ロードマップ）をもう少し具体的に示すことが望まれます。
○国際交流が活発であるとは言えない状況で、改善すべき事項はないのでしょうか。

Ⅳ. 学内第三者評価の評価結果を受けての追加記述

★ 国際交流の推進については、第二次将来構想（2008年12月教授会承認）に基づき、まずは既存の協定校との関係強化を図ってきた。また交換留学なども含めた学びの将来的展開を視野に、教育課程においても2010年度に学則改正を行い、必修科目および先修条件の緩和、自由履修科目単位数増加などを実現してきた。今後はまず将来構想委員会（学部）を中心に全体方針の策定を行い（2013年度までに）、考えうる事業を検討した上でそれらの具現化を目指す。

Ⅴ. 本項目の評価指標

<全学的な指標>

7.0.0.S1	協定校と相互交流数(学生・教員)
7.0.0.S2	国別国際交流協定締結先機関数
7.0.0.S3	人的国際学術交流数

<個別的な指標>
